

指導資料



鹿児島県総合教育センター

音楽 第37号

- 小学校，特別支援学校対象 -

平成20年10月発行

思いや意図をもち，豊かに表現する音楽科の学習指導 - 歌唱指導を通して -

本年3月28日，新学習指導要領が公示された。音楽科では，小学校，中学校及び高等学校を通じる音楽科の改善の基本方針の一つとして，音楽のよさや楽しさを感じるとともに，思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することが示された。

これまでも表現及び鑑賞の各活動においては，楽曲に対するイメージを膨らませ，気持ちを込めて表現したり，思いを表現に生かそうとしたりする活動は行われてきている。しかし，思いが漠然として明確でなかったり，追究活動で技能的な面に終始してしまい，最初にもった思いが見失われたりする場合があった。また，思いはあっても，表現に生かす方法が分からないといった場合も課題として挙げられる。

このような課題も踏まえ，今回の改訂では，これまで以上に，音楽のよさを感じ取り，思いや意図をもって主体的，創造的に音楽活動にかかわっていくことが強調されている。

そこで，本稿では，思いや意図をもち，豊かに表現する学習指導の工夫改善について，表現領域の「歌唱」の活動に焦点を絞り，事例を交えながら述べる。

1 「思いや意図をもって歌う」とは

新学習指導要領解説〈音楽編〉では「思いや意図をもって歌う」とは，「表現に対する自分の明確な考えや願い，意図をもって歌うこと」と示されている。（ただし低学年では，発達の段階から「意図」，「明確な」という表現は除かれる。）ここには，児童が自ら考え，試行錯誤し，主体的に歌唱活動に取り組んでいって欲しいという願いが込められている。そして「このような活動を目指すことは，児童が自らの感性や創造性を発揮しながら，自分にとって価値のある新しい歌唱の表現をつくり出すことにつながる」としている。

2 「思いや意図をもつ」思考の過程

教材との出会いの段階では，その楽曲に対するイメージをもつことはできるが，多くは表現に対する思いや意図をもつまでには至らない。そこで，その楽曲のイメージとともに，その音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組み（新学習指導要領の〔共通事項〕を参照）を聴き取り，それらの働き

が生み出す面白さやよさを感じ取るようにすることが大切である。

そのために、出会った楽曲について感じたこと（直感的な感受）だけでなく、気付いたこと（楽曲の特徴や仕組み）を互いに言葉で表現し、話し合う場も重要になる。ここで言う「思いや意図をもつ」とは、おおよそ図1のような思考の過程で示すことができる。

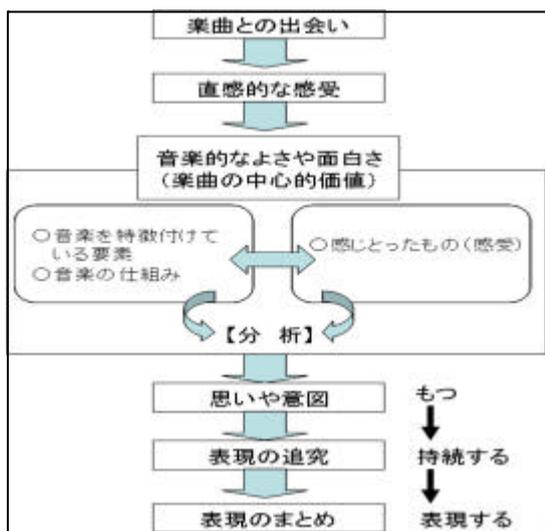


図1 「思いや意図をもつ」思考の過程

3 「思いや意図をもって歌う」ための指導の工夫

(1) 楽曲との出会い及び「思いや意図をもつ」場を工夫する。

楽曲との出会い及び「思いや意図をもつ」場では、以下のもの等が使われる。

- ・情景画，縦書き歌詞，拡大楽譜
- ・視聴覚機器 ・参考曲
- ・教材にまつわる資料（エピソード，写真，実物など） など

これらのものを十分に生かし、まず楽曲に何か魅力を感じたり興味をもったりできるようにしたい。さらに、その上で表現に対する思いや意図をもつことができるように、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働

きが生み出す面白さやよさを感じ取ることができるようにしたい。

そのためには、耳からだけでなく視覚も生かすようにする。例えば、

【楽譜から】

A - B - Aの形式や、三部合唱であることに気付くことなどができる。第4学年の「パレード ホッホー」では、児童が、前半部は「スタッカートがついている」、「長さの短い音符が多い」、後半部は「伸ばす音が多い」、などに気付き、曲の感じが弾んだ感じから滑らかな感じに変わることを、実際に聴いた曲と結び付けて捉えることができる。

【歌詞から】

反復や問いと答えなどの音楽の仕組みに気付いたり、言葉から作詞者の思いや意図を探ったりすることで、自分なりの思いを抱くことなどができる。

【写真や映像から】

作曲者や作詞者の意図を探究し、楽曲に対する理解を深めたり、楽曲と結び付けて自分なりの思いを深めたりすることなどができる。

(2) 記録と話し合いを生かす。

思いや意図を持続させるには、記録を効果的に生かす工夫が必要である。週1、2時間の音楽の時間では、当然思考が一端途切れてしまうことは否めない。そこで、題材を通した学習カードなど、記録に残しておく方法は、記憶を呼び戻すのに有効となる。

また、1単位時間の中でも、記録することで、課題意識を持続させ、自分の思

いや意図を明確にもって、主体的な活動を進めることができる。記録の方法として、次のような方法がある。

- ・題材の学習計画表
- ・題材を通した学習カード
- ・1単位時間のワークシート
- ・教科書（楽譜）への書き込み
- ・短冊カード，（小）黒板

学年の発達の段階や題材及び1単位時間の流れに即し、有効な手立てを取って行く必要がある。気を付けなければならないのは、記録に時間を取り過ぎ、本来の追究の活動の時間が不足するといった事態にならないようにすることである。

また、学習過程で、音楽を聴いて感じ取ったことや、児童それぞれの思いや意図などを伝え合う活動や、グループ及び全員で表現を練り上げていくための話し合い活動を十分に取り入れていくようにする。そのことによって友達の感じ方に気付いたり、自分の見方や考え方を広げ、思いや意図を明確にしたり、深めたりすることができる。言語活動の充実は、今回の改訂の要点としても挙げられている。

4 「思いや意図をもって歌う」活動の実際

これまで述べてきたことを基に、第5学年の題材を取り上げ指導事例を示す。

- (1) 題材 ふしの重なり合いを感じ取ろう
- (2) 目標 声や音が重なり合う響きを感じ取り、表情豊かに歌ったり演奏したりするとともに、旋律の特徴を感じ取り、演奏の仕方を工夫することができるようにする。
- (3) 教材 「いつでもあの海は」

（佐田和夫作詞 長谷部匡俊作曲）ほか

(4) 実際（全8時間）

ア 楽曲との出会い（1 / 8）

教材との出会いにおいては、海の情景画を用意し、イメージを捉えやすくし、また、縦書き歌詞で常時一つ一つの言葉を拾い上げられるようにした。さらに拡大楽譜を用い、合唱部の重なり方の違いが分かりやすいようにした。

その後、表現への思いや意図を明確にもてるように、曲を聴き、感じ取ったことを伝え合う場を設定した。児童は次のような反応を示した。

感じたこと（楽曲のイメージ等）

- (ア) 海が語りかけているよう
- (イ) 海は友達のような
- (ウ) 激しい海とやさしい海
- (エ) ゆったりとした、なめらかな



例えば、歌詞の「波がやさしくささやくように」や「大きな夢をもてと未来へまねく」などから(ア)や(イ)のように感じたり、1番の「激しく」と2番の「やさしく」の歌詞の対比や情景画の波の様子から(ウ)のように感じたりしている。また、主に楽曲のテンポや曲想から(エ)のように感じている。

気付いたこと（楽曲の特徴や仕組み）

- (ア) 途中から二部合唱
- (イ) 追いかけるような重なり方
- (ウ) 1段目と2段目は似た節
- (エ) 曲の山は3から4段目にかけて



児童は、楽曲の聴取、または楽譜から(ア)(イ)(ウ)に気付いている。これらは楽曲を聴くことのみで気付く児童もいるが、楽譜で確認をすると、重なっている声が二部であることや、高声部と低声部

の音符がずれている（低声部は休符から入っている）ことに気付く。（エ）については強弱記号は付いていないが、楽曲の聴取やこれまでの楽曲のパターンをヒントにしている。全員に感じ取らせるように実際に歌って確かめた。

イ 記録を生かし、思いや意図を明確にした表現活動（1～3 / 8）

まず、教科書に、曲の感じを生かし自分はどのように歌いたいかが記入するよう指示し、さらに、拡大楽譜や縦書き歌詞などを参考に、自分なりに気を付けたい点や、このように表現したいという点を記入するよう指示した。児童は、

- ・友達と合唱をきれいに合わせる
- ・海が語りかけるように歌う
- ・4段目の最初を盛り上げて歌う
- ・出だしに気を付ける
- ・音を伸ばす
- ・ていねいに発音する



など、これまでの学習で学んだことにも気を付けて書き込みをすることができた。その際、教師は一人一人の様子を見て回り、できるだけ助言や賞賛を行った。また、書き込んだ内容を言葉に表し伝え合うことによって、自分の思いや意図を明確にしたり、気を付けたい点などを確認し合ったりできるようにした。

全体での歌唱の際は、楽曲の特徴や合唱のポイントとなる部分（児童の感想や気付きを生かす）を実際に声を出して確かめるようにし、自分たちでグループ活動を進めていくときに生かすことができるようにした。

グループ活動の際は図2のワークシートを使い、自分たちがどの部分に特に気

を付けて練習し、どのように歌いたいのかが、活動のポイントを明確にするようにした。

その際は、それぞれの思いをグループで伝え合って話し合い、グループのめあてや活動のポイントに生かせるようにした。また、自分たちの表現を途中で振り返り、次の表現に生かすといったような欄を設けるようにした。

以上のような活動により、一つ一つのポイントを意識して、確認しながら進めることができ、追究活動の途中でも自分の思いや意図を見失わずに活動を進めることができた。また、ワークシートの記入内容から教師はそのグループが何を課題としているかが分かり、的を絞った支援をすることができた。

5年 ふしの重なり合いを感じ取るう
「いつでもあの海は」
ふしの重なり合うひびきを感じながら、表現を工夫して歌おう。
【グループのめあて】
互いの声をきき合って、ひびきのある二部合唱にしよう。

【活動のポイント】

合唱部のはじめ	ひびきのある声
口 形	曲 の 山

回	活動のポイント	話 合 い
1	重なりのタイミングに気を付ける。	重なりのタイミングはよかったが、音でいが合っていない。
2	音でいに気を付けて歌う。	だんだんよくなってきたが、4段目の最初はまだ、合っていない。声をもっと出す。
3	口の開け方に気を付けて声をもっとひびかせる。	前より声がひびくようになった。曲の山はもう少し気持ちをこめてもり上げるようにする。音でいに気を付ける。

図2 ワークシート

本稿の実践例は一例である。指導に当たっては、表現を工夫する手がかりを常に音楽の中に求める習慣を身に付けるようにするとともに、思いや意図をもち、表現の工夫を試す体験を様々な題材において積み重ねてくことが重要である。

〔参考文献〕「小学校学習指導要領解説 音楽編」

文部科学省（平成20年6月）

